

## 令和4年度第74回卒業証書授与式 学校長式辞

日増しに暖かさが増し、春の息吹が感じられる季節となりました。

本日、福井県立高志高等学校の第74回卒業証書授与式を挙げるにあたり、PTA会長 井上 博之 様、同窓会 会長 井上 繁 様 をはじめとする御来賓の皆様、ならびに保護者の皆様の御臨席を賜り、誠にありがとうございます。

ただいま、卒業証書を授与した241名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが本校に入学した令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による全国一斉休校で始まりました。

コロナ禍の影響で、私たちの日常生活には大きな変化が訪れました。学校生活にも様々な制限や制約が課され続け、本日の卒業式も、中学生や高校1・2年生の参加を断念せざるを得ませんでした。

この3年間にわたり、皆さんに不自由な思いをさせ続けてきたことは、私たち教職員にとって実に心苦しい限りです。

しかしながら、皆さんは、様々なことに前向きに、そして誠実に取り組んでくれました。皆さんのそのような姿に、在校生はもちろん、私たち教職員はどれほど元気づけられたのでしょうか。

皆さんは、できないことの言い訳を見つけようとするのではなく、自分たちにできることを探し、それを実現するための方法を考え、互いに協力し合い、未来を信じながら精一杯力を注いでくれました。その姿勢が、学習や部活動、課題研究や学校行事、その他の活動における素晴らしい活躍に結びついたのでと確信しています。

時には、望んだような結果に至らないこともあったかもしれませんが、試行錯誤を重ねた、そのプロセスから大切なことを学んだという人も多くいることと思います。

そのような皆さんの頑張りのおかげで、高志高校はこれまで以上に素晴らしい学校になりました。心からお礼を言います。ありがとう。

とは言うものの、高志高校は、まだ発展の途中です。今後も、高志高校は、高志中学校とともに、自分の夢を見つけ、それを実現するために果敢にチャレンジしようとする生徒のための学校として、成長を続けたいと考えています。

その一つとして、SSHに関することをお話しします。

本校は、今年度までの20年間、SSH指定校として、理数教育や国際教育に力を注いできました。SSHの第IV期指定が今年度で終了するのを受け、本校は、来年度から新しいステージとなる第V期の取組を始めたいと希望し、文部科学省にその申請をしました。

2月上旬、審査会が行われ、事前に提出した資料の中にある「質の高い課題研究」とは何か、という質問を受けました。私は、「事実やデータに基づいて、より正確な分析や深い考察をすること。それによって、生徒の論理的思考力・表現力を伸ばしたい。」と答えました。

次に、本校が「未来社会を創造する探究力の育成」を掲げていることに関連して、「データの分析を行うことが未来を創造する探究力につながるのか。」と聞かれたので、「分析や考察を行う中で生まれる気づきが創造力の種となる。」と答えたところ、「それは小さな気づきではないか。小さな気づきが社会を変えるような大きな創造力につながると言えるのか。」と更に問われ、私は答えに窮してしまいました。

後日、本校の運営指導委員の先生に伺ったところ、「定量的な分析・考察は極めて大切で、それを基にモデル化を試みる際に創造力が発揮されるのは間違いない。」ということでしたので、課題研究の質的向上が更なる創造力の育成につながると信じて、SSHの取組を進めていこうと考えているところです。

皆さんは、課題研究を通して、思考力・判断力等を伸ばしてきました。本校で3年間の探究学習をやり遂げた皆さんには、「未来社会をつくる創造力の種」が贈られたのです。

私たちは、高志高校で行った探究と創造の営みが、皆さんの将来の活動の土台となると考えています。大学等での学びを通して、今持っている分析力・考察力等に更に磨きをかけ、「創造力の種」を芽吹かせ、花開かせてください。そして、その力を、「社会のウェルビーイング」のために活用してください。

もう一つ、エピソードを紹介します。

2月11日、高志中学校でおよそ2年ぶりに、土曜特別講座が行われました。

灘中学校・高等学校からお招きした河内一樹先生の数学の授業では、冒頭、次のような問題が出されました。

「 $6 \times 8$ 個の小さな正方形が集まった長方形のチョコレートがある。2人が順番に、チョコレートを折っていくというゲームを行う。折ることができるのは正方形と正方形の間の線の部分だけで、1本の直線に沿ってしか折ることができない。最後に折ることができなくなった人が負けというルールである場合、このゲームは先手・後手のどちらが勝つだろうか。」

参加した中学生たちは、紙に図を描いたり実際にハサミで切ったりしながら、答えを導こうとしていました。しばらくして、河内先生は、次のように言われました。

「線を1回折るごとに、何が起きているか気付いたか。最初は1枚の板だったチョコレートが、1回折ると2枚、2回折ると3枚・・・という具合にチョコレートのかたまりが増えていく。このゲームはチョコレートのかたまりが48個の正方形に分かれた時点で終わりなのだから、チョコレートを折る作業は、どのような順番であっても47回行われる。」

さらに、先生は、「図を描いたり紙を切ったりするのもよいが、そればかりしていると、原理に気付かなくなることがあるので注意が必要だ。」と言われました。

将来、答えが定まらない様々な問いに対峙する皆さんには、目の前の問題を解決する方法を見いだすことに加えて、物事の原理を理解することや、本質を捉えたいうえで対処の仕方を考えることにも意識を向けてほしいと願います。俯瞰する目が重要だということです。

昨年4月の始業式で、私は皆さんに「越境」の話をしました。『コンフォートゾーン』に居続けると人は成長できない。だから、その外にある『ラーニングゾーン』に踏み出してみよう。」とお伝えしました。

4月からの新生活は、まさに、皆さんにとっての「ラーニングゾーン」です。多少の不安は、皆さんを奮い立たせる「ハッピーストレス」と考えてください。恐れる必要は、ありません。

その時々自分の居場所と向かう先を俯瞰しながら、様々なチャレンジをし、「現状+1」を達成する努力を続け、自分を成長させていってください。

保護者の皆様、本日は、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

お子様たちには、様々な経験を糧にしながら、自己の可能性を広げていただきたいと願い、私たちはこれまで支援させていただきました。

コロナ禍の影響等により、皆様にはいろいろと無理をお願いすることがありましたが、御理解・御協力いただき、誠にありがとうございました。

本日、本校を卒業するお子様たちが、今後の人生においても、さらに成長を遂げられ、未来社会の創造者として活躍されますよう、お祈りします。

天地（あめつち）は我らを待てり  
海山の花としならむ

卒業生の皆さん、校歌の歌詞に込められた「高志の魂」を、いつまでも持ち続けてください。

式辞の結びに、学校祭実行委員長を務めてくれた、3年7組 北野君の言葉をお借りします。それは、「心のカメラ」という言葉です。

皆さんの「心のカメラ」には、高志高校での1コマ1コマが収められているはずです。それらと一緒に、これから経験する1つ1つの出来事とその先の人生の土台となり、皆さんが充実した人生を歩まれるよう、心より祈念します。

令和5年3月1日

福井県立高志高等学校長  
山内 悟